

アピ

2012年
3 号



文学を愛する会

甲 F 第 51 号証 9191

私はイザベラの前途を更に迎って行きたかった。とりわけ特にポーランドの共産主義体制の瓦解のあとを。しかし彼女は何度も引つ越しをした。そしてある引つ越しの後、クリスマスカードの中で約束されていた手紙はもう来なかった。いちど私たちがお互い子供を連れて会った時、彼女は子供を眺めながら言った。

「子供たち二人は友達になれるかも知れませんわ。でも私たちの世代はまだ過去から逃れられないのです。ですからドイツ人を友達にするなんて考えられません」

(完)

*作者のナームさんはドイツのボン市で国際交流協会を組織しています。そこに集う女性たちにインタビューしてまとめたものが、この「何を夢見たの、アリファ? (Wovon hast du geträumt, Alifa?)」です。ドイツ・フイツィヤー文庫より出版されています。

*その中の三篇を訳してみました。

*今回の投稿については作者の承諾を得ています

私達は、アピを応援しています

「アピ」第3号おめでとございます。
新しい創作・エッセイなど毎回楽しみにしております。
ますますの発展を!

グループ・テアトロ

白岩 知明

グループ・テアトロは演劇の企画上演グループです。
2007年1月に結成しました。
現代に生きる人が抱えている問題の、核心を突いた作品選びをモットーとしています。

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 2-22-17-201

〈特別寄稿〉

原発避難住民の声

大友章生

○地震発生直後から避難まで

(3月11日)

平成23年3月11日午後2時46分大地震が起き、間もなく津波がやってくるが、幸い海岸から5km離れた我々の地区は(南相馬市小高区神山)被害を受けませんでした。

地震による屋根瓦の崩れ・壁のひび割れ、家具類の散乱、家の周囲の地割れ等があったが、倒壊家屋はなく、我が家の3人をはじめ幸い地区全体に人的被害はありませんでした。ただし停電により、水道(地区全体は自家水)・電話・防犯無線及びテレビの通信網が不通となると共に携帯電話もつながりにくい状態となりました。

地区内では、暖房・食事等のことや余震への不安から

家の中に入れない方がおり、地区内の集会所を一時の避難所とし工事用の発電機を準備して、こどもや高齢者を中心に20数人が避難していました。

夜遅くなって、仕事から戻った人達から、原発に異変が起こっているようである等の情報があったが、行政からは何の指示もないまま不安な一夜を明かすこととなります。

(3月12日)

東電の原発に関することや津波被害のことが断片的に、また、不確実ではあったが避難するように等の情報もあったので、それぞれが自宅に戻り貴重品等をまとめて避難に備えた準備をしました。

当地区は原発から北西13kmの所にあるが、午後3時

367 分頃に集会所にいた人達数人が、原発のある方向で大きな爆発音のしたのを聞いています。そして、夕方暗くなりかけた頃に、原発が爆発して大変なことになっているとのことで、他地区の方が我々の地区を通して避難移動をしていました。それにつられるように我々も貴重品と何がしかの寒さをしのぐ物を車に詰め、西の方向に向けて車を連ねて避難を開始しました。

途中、同じ小高区内に住んでいる娘達家族と連絡がつき、原町区の学校の体育館が避難所になっているとの情報で、その方向に車を進めました。

避難所になっている石神二小体育館は、多くの人達であふれています。その中で我々は、神山地区から一緒に来た10数人の人達がやと横になれる場所を確保し、持参した「おにぎり」などを分けあって夕食を済ませ互いに励まし合って横になりました。

(3月13日)

昨夕遅く避難した人達の中には、車の中で一夜を明かした人もおり、午前9時頃になって、教室が開放され車の中で夜を明かした人達が入って来ました。

体育館には行政からの担当者もいたが、特に情報の報告もなく、三度の炊き出し「おにぎり」が配られてそれを頂き、不安な気持ちの中で一日を過ごすこととなりました。

新潟や群馬県へ避難した人もいたと聞きました。

○福島での避難生活について

原発がこのような状況になっており危険なのでここに避難しなさいなどの説明は一切なく、本当に何事が起きているのかもわからないまま、周りの流れに合わせるような避難場所への移動でした。今ここに居ることが、果たしてどうなのかの疑問を持ちながらの、福島での避難生活のはじまりでした。

福島でも地震の被害で水道が断水、2km離れた給水所に行き一人ペットボトル2本だけの給水を受けました。また、ガソリン・灯油もスタンドが開かない為、石油ストーブ・風呂も使えず車も動かさない生活でした。何よりもトイレの水がないのは大変苦労しました。

食事は3月16日に、福島市役所避難支所に仮住いの住所を申請に行ったところ、近くの小学校が避難所になっているので、そこから支給するよう手配して頂きました。

最初の一週間位はおにぎりやパンとお茶程度でしたが、本当に嬉しいことでした。そのうち果物等や副食品も加わるようになり、私達は娘達家族を含め8人でしたので大変助かりました(実は、炊飯する鍋もなかったのです)。

4月になり孫も学校が始まりました。また、避難所も縮小したので、4月中旬まで支援を頂くことにしました。

す。

(3月14日)

朝、担当者から盛んに至急待機の指示はあったが、その訳については説明がされませんでした(避難所にもはつきりした情報が届いていなかったのではと思う)。また、テレビ・ラジオなどの報道から、他の所に避難しなくてはならなくなるのではとの話になり、今後は地区としての一緒にの行動は無理なので、家族単位で行動することにしました。

夜10時過ぎになって、もつと遅く避難などの情報が流れ、移動する人、そこに留まる人、夜明けを待つて避難する人とさまざまです。

(3月15日)

小雨・小雪まじりの中、私達は飯館村を通過して福島市(蓬萊町)の義弟宅に救いを求めることにしました。そこで昨夜からお世話になっていた娘達家族5人と合流することになります。以後、7月までの5ヶ月間義弟宅にお世話(避難生活)になることになりました。

私達は義弟宅へ避難しましたが、避難所にいた方の中には漠然と西の方の福島方面や埼玉・東京などへとガソリンを心配しながら車を進めた人もいたようです。また、体育館に残った人の中には、市が手配したバスは乗らず

その時係りの方から遠慮なくまたまた支給を続けられますよ、との声を掛けていただきました。今でも、その時のことを思うと本当に胸が熱くなります。

避難当初の3月中ころは店じまいのところが多く、開いている店でも食料品・日用品が品薄のため時間制限があつて、列を作つて並んでも求められないことがありました。

ガソリンがないため遠くへは行けませんが、3月25日頃から少量の販売をするスタンドも出て来て、早朝から並べば求められるようになり、活動範囲も広まって来ました。

避難生活が、少し落ち着いて来たところ、悩み苦しんだことは娘や孫達家族のことです。放射線量と小学生の孫達のことを考えると、福島からもっと遠く離れた所が良いが親達の仕事・仕事場を考えるとどんな選択が良いのか、そして私達には、90歳を越した母がおり、落着き先をどこにするか、苦しい日々・眠れない夜が続きました。しかし、娘夫婦はそれぞれの職場からは職場復帰を求められており、親子離れ離れの生活は考えられず、親達の南相馬市への通勤、孫達の通学を考え、娘や孫達家族は小学校の近くのアパートに移りそこで避難生活をすることにしました。

3月は、住む所、食べる物を求め探すことに必死な日々を送っていました。一方追い出された里の状況を知りたくても、全く情報がなく、自分が今ここでこのような生活をしていることが何なのかも深く考えることもなく日々を送る毎日でした。しかし、今でも胸につかえるものがあります。それは、小学生の孫達の受けている放射線量のことです。

公共施設はそれなりに除染をして放射線量の低減がみられるが、子供達の活動範囲は広く、道路の周辺を歩くと、建物の側溝や樹木の周りは高線量の所があり除染されていません。その除染計画も未定、そんな所で生活をしているのが現状でした。

尚、孫達は4月から福島市内の松川小に転入、その後親達の職場への通勤も考え福島より多少放射線量の低い、相馬市内の小学校に11月再度転校することとなります。

子供達の被曝はたとえ低被曝であっても、将来に関わることであり健康障害が起きないような、しっかりとした国・県・市の継続的な健康管理追跡を求める以外、私に出来ることはありません。常日頃孫達の姿を見る時、今でもこのことが一番気になる胸のつかえとなつて離れることはなく、苦しく悶々とした日々を送る毎日の生活です。

したが、今は、そんな日常のごく普通の会話が不可能となりました。通信は、古里を遠く離れた人達を結びつける通信となるように位置づけ、A4判、月一回程度の無理ない範囲で発行しています。

発行する者にとっては、神山の皆さんからの便りが何よりの励みであり元気の素、発行の勇気になっています。7月には朝日新聞全国版に「神山友愛の里通信」が掲載され、その記事を見た神山出身の県外の方から「大変懐かしう嬉しいことです」との便りも寄せられました。

苦しく・辛く、そして何をしたらよいのか分からないのが避難者である私達の現状であり、実態です。人は、目標があればそれに向かって努力するものです。

私達が住んでいた神山地区は、交通面をはじめ、経済的にも決して恵まれた所ではありません。その代わりに自然に恵まれ、心の豊かさを大切にしてきた地区です。絆は自然と存在していた所です。今回の原発事故により皆さんははらばらになってしまいました。

神山の34戸の内、仮設住宅には約1/3以上の方が入居していますが、ほとんどの家族は3つが所は分かれた生活をしています。仮設には、古里に近い所に住むことを希望しているお年寄り、若い人は仕事のことや子供のことを考え県内外で生活しています。

○現在の避難場所に決めた思い

日が経つにつれ、何もする事のない避難先(団地)での生活は耐え難い苦痛でした。特に90歳を越した母は順応が難しく日に日に気持ちの面、体力的にも弱っていく姿が感じられ、この環境を何とかしなければと思うようになりました。

今回一緒に避難した娘夫婦や兄弟達と相談して、母親のためには我が家に近く自然が多く所が良いのではないかと考え、現在の南相馬市鹿島区への転居を決めました。また、娘夫婦達も、通勤のこと等もあり、そこでしばらく一緒に同居することとしました。ただし、転居にあたっては、原発の状況がまだまだ不安定な状態でありましたので、不安な気持ちを持つての決断でした。

○神山友愛の里通信の発行について

5月に入って福島市内に避難していた5家族が集う機会がありました。その時に神山の皆さんの連絡網を作れないかとの話になり、知りうる限りで連絡を取り合ったところ、それぞれから久しぶり、懐かしいとの手紙が寄せられ、その手紙を友愛の里通信で伝える事を基本にして発行をすることにしました。

避難生活前は、毎日のように顔を合わせ、互いの健康チェックや野菜の作付け・収穫の具合などを話していま

「神山友愛の里通信」発行が絆を大切に古里神山に全員が帰れるまで肩を寄せ合い、心を繋いで生活していく為の役割を果たせればと願っています。

なお、これまでの通信の中から「神山住民の声」を抜粋してお知らせします。

▼通信2号(平成23年6月1日)

☆山形県南陽市の湯宿 升形屋に舩田啓子さんと一緒に所におり、親切な周囲の方にお世話になり散歩を兼ねて、わらび採りなど近くでできそれなりに、楽しい日々を送っていますが、仮設住宅でもよいです。早く神山の皆さんと会って楽しい話のできる日を待っています。(佐藤邦夫・薫)

☆南会津町におります。家族が2ヶ所に別れての生活なので、一緒に住める生活をしたいです。仮設住宅の入居を早く願っています。(吉田宏)

▼通信3号(平成23年6月22日)

☆一時娘のところに避難してましたが、今は家族3人、住宅を借りて生活しています。この頃、神山に帰りたい気持ちが日一日、強くなっていく感じです。(吉田清一)

☆最後の方の避難となり、群馬の方に来てしまいました。

子ども・孫達と離れ離れ、陽子と二人でホテルにいます。古里は遠いですが、置いてきた、牛のことが一番気がかりです。(吉岡千恵)

☆南相馬市復興のため、津波で被災されたところのガレキ処理など、一役を果たしています。被害の大きさをうつづかんじています。市内に妹たち家族と一緒にいます。(坂井秀一)

▼通信4号(平成23年7月11日)

☆日中仕事をしないで過ごす時間の長いこと、世話になっていた避難所を訪ねての旧知の方との会話の時間が楽しい。しかし、神山の方々と会えないのが残念です。そんな時神山友愛の里通信を出して読んでいます。仮設住宅に戻ってきたとき会えるのを楽しみにしています。

(青木富子)

▼通信5号(平成23年8月25日)

☆友愛の里通信ありがとうございます。皆さんの近況が分かりホッとしています。私のいる所は木々に囲まれ周囲には遊歩道やグラウンドゴルフ場などがあり、体を動かすには大変重宝されたところです。ボウリングシアの方々によるイベントも多く7/30・31日には、南相馬市からNPO法人の方々・職員さん達による復興物産店などが開かれ、そこで、相馬流山と一偏返しの踊りをやること

になり有志10名の方々と楽しく踊りの練習をしています。7/22日に一時帰宅が決まりました、神山の方と会えるというナ。 (吉岡陽子)

☆「友愛の里」通信嬉しく拝見させて頂いております、心から感謝申し上げます。情報の少ない埼玉県ですがようやく家賃が無料になり、8人家族の我が家は2ヶ所にアパートを借り歩いて10分ぐらいのところ、子ども・孫達と離れた生活になりました。原発事故は子ども達にも大きな犠牲を押し付けかわいそうです。私もこれからことを考えると先の見えない、不安と悔しさが込み上げてストレスで眠れない夜もあります、早く我が家に帰りたーい一番の願いです。神山部落の人達全員と無事に再会でき、以前の平和な生活に戻ることを心待ちに願う毎日です。(馬場律子)

☆一時帰宅で身の丈もある雑草の中にヒアワリ草を見つけホッとしました。野木の町に帰って、夕方散歩中、稲穂がそよ風にゆれるのを見て改めて、時の過ぎ去ったことを認識させられました。最近地域の方とも触れ合いグラウンドゴルフやゲートボールを楽しんでいます。原発が早く治まり神山のおいしい水でお茶を飲みながら、つめる話のできる日を楽しみに頑張っています。(上野美代子)

☆神山友愛の里通信4号届きました、私に勇気と元気をくれるこの通信が一番の薬です。娘達と(浪江町)一緒に仮設に入るのは無理だと思つので、今のところ悩んでいます。一戸建を望んでいますが、なかなか思うようにはならないものです。思は神山のことばかり。(山田シゲ子)

☆山形には情報が詳しく入って来ないので地元がどんな状況になって、南相馬市の行政の方向性がどのように示されているのか、把握する事も意思を伝える事も出来ず、変な噂だけがちよこちよこ耳にしてヤキモキしています。積極的に意見表示をしていかないと「おとなしく、じつと我慢の子」では自分たちの生活は出来ないのではないかと思います。じゃ、こんな遠くに居て私に何が出来るの？原町か福島市のどこかに集まり、食事でもしながら、そんなこんな何かが見えてくるのではないかなー何より元氣とパワーをもらってまた頑張れるはずですよー

母も7月の一時帰宅を機に山形へ来て一緒に生活しています。見知らぬ土地で友達もやることも無いのでメシタル的なところが心配です。そんな中、朗報がありました。愛犬モコが見つかり、愛知県で元氣にしていました。4月4日に動物保護ボランティアの方に保護され、ドッグカフェでとても良い環境の中で過ごしているそうです。

お盆休みに会いに行こうと思っています。(佐藤田紀恵、和子)

▼通信6号(平成23年10月10日)

☆何が何だかわからないままに、若い人達に付いて来ました。(埼玉県飯能市)最初は寂しくて、毎日眠れなくてストレスもありました。畑を借りてから、少し落ち着きました。取りたての野菜は美味しいです。8月からシルバーに出ました。なるだけ、じいちゃんと一緒にの所に行つて、草取りや刈った草を袋に入れる仕事です。南相馬の情報が余りないので、「一時帰宅」(1巡目)が8/1日でした。家の周りはお化け屋敷状態でした。仮設を申し込みましたが、10月過ぎになると言われました。仮設に入れる日を楽しみにしています。神山の方たちの情報がわかるので「友愛の里」通信を楽しみにしています。

(池崎トニエ)

▼通信7号(平成23年11月6日)

☆お久しぶりです。こちらは寒くなりましたが南相馬はいかがですか。私達は(10月8日)に、一時帰宅しました。家の様子があまりにも変わり果て、驚きました。言葉にならない様子、子ども達も大変驚いていました。いつ帰れるか分かりませんが、早く神山に戻りたい想いですが、寂しい気持ちでいっぱいです。神山友愛の里通信、

毎月ありがとうございます。(志賀清・留美)

☆「神山友愛の里通信」をいつも楽しみに拝見させて頂いております。震災から半年が経ちましたが家がありながらも帰れないと言ふもどかしい気持ちと、やりきれない思ひの毎日です。東京にいる為なかなか、情報が入らず「神山の一時帰宅日」もわからないままでした。やっと11月に帰宅が出来そうです。主人は都内まで電車で通勤、私も子ども達も慣れない土地で何とか頑張っております。一日でも早く神山の皆様と再会できる日を楽しみにしております。尚母は、8月下旬より鹿島の仮設住宅に入居しました。(原千秋)

☆皆さんお変わりなくお元気でお過ごしのことと願います。

私達が富山に来て、7ヶ月と10日。両親の仕事のため、孫(和史)との生活でした。その孫も今はいわき市へ引っ越し、狭く感じていた部屋に、寒さが静かに忍びよって来て、二人きりの部屋で別れの涙がよくもこんなにあるものだと思うほど出て来て、半日泣きくれ、今は広い部屋で寒さが身に凍みます。娘(博子)が来て、慰めにと白川郷へ誘ってくれましたが、一時は忘れても一人に成ると空しくなる。頑張らなければと、自分はいきかせても、何を目標に頑張れば良いのだろうか、こんな事に

どうして成ったのだろう。私も来月には70代後半に入ります。

泉の学校へ転入した孫は元気に通学している様子を聞き、子供はやっぱり順応性があるのですね。嬉しくなり安心もしました。残りの人生やっぱり頑張らなければ、無理なく楽しく、自分の人生です。

今を、大切に生きて行こうと思います。仮設を申し込んでいます。今年中に皆様とお逢い出来ることをねがっています。(池田トキ)

▼通信8号(平成23年12月3日)

☆いつも神山友愛の里通信を届けて頂きありがとうございます。仮設での生活も3ヶ月になりました、何とか頑張っております。鹿島といわき市とに離れて生活していましたが、11月始めに邦界が仮設のある鹿島から仕事先(福島第2原発)へ通勤許可が会社から取れて通勤出来る様になったため、いわき市から戻り現在は毎日仮設から通勤しています。

各地で生活している皆さんこれから寒くなります、身体に気をつけてお過ごし下さい。一日も早く再会できる日を楽しみにしております。一時帰宅(2巡回) 今月13日に決まり、家の様子がまた変わっているのかと思うと少し寂しい気がしますが、今度はマイカーで行ける様

なので何を持ってこようか話し合いながら今リスト表を作っています。それではまた…(松倉美枝子)

☆避難してから8ヶ月慣れない土地での生活如何ですか、お元気の事と思います。10/28日第2回目の一時帰宅で、馬事公苑から山麓線経由で神山の里まで切れ目なくサヤタカアワダチ草が田圃一面に旺盛に伸びていたのが目に付きました。人の手が入らないと、こうも荒れるのかナーと憤けなく思いました。家に入ると前の帰宅より荒廃がひどく落胆、泉湧出る清らかな神山の里に生を受け80年ゴツゴツと頑張ってきたものを一瞬にして失ってしまった。早く帰って家の復興をしたい、でも放射能汚染で帰れない。除染は一向に進まず悔しくて涙がでました。この精神的苦痛を重電に訴えたい。

1時半に馬事公苑に戻り、一本松から東北道南下西の山の縁が、とっても奇麗に見えたので宇都宮より日光を巡って一泊して帰りました。少しだけ心が洗われた気分になりました。

ふるさとこの皆さん、寒さに向いかぜなどひかぬよう頑張ろう。(上野美寛)

▼通信9号(平成23年12月13日)

☆通信ありがとうございます。今年も残り少なくなりました。神山の皆さんお変わりなくお過ごしの様子嬉しく

思います。私どもは、沖縄と遠く離れて懇親会には参加できなく残念です。本当に残念です。参加者40名ほどのこと、楽しい会になる事でしよう。

沖縄に来て早くも1ヶ月半、ここ数日寒くなりました。マンション暮らしですが、娘達2家族と2、3、5階と分かれて、食事をしたり楽しく過ごしています。皆さんによろしく……(富澤豊・トク子)

☆いつも、いつも「神山友愛の里通信」を送り頂きありがとうございます。家族皆楽しく拝読しております。時々南相馬市に行くのですが、用事をすませると、中々皆さんとお会いする時間がとれなく残念です。両親は、富澤さんと夫妻と散歩やお茶会をしていた楽しみも、沖縄に行かれてからは出来なくなり寂しそうです。学校の様子がよくわかる場所に住んでいるので、小学生から元気をもらっています。今回の懇親会に参加出来ず残念ですが、ご盛況をお祈りしています。(池崎徳好・ゆかり)

▼通信10号(平成24年1月15日)

☆毎日寒い日が続いています。お元気にお過ごしでしょうか。飯坂温泉での神山忘年会は大成功、とても懐かしく楽しかったです。尽きることのない話し、皆さんの神山に絶対帰ると云う意思の強さに「力」を貰いました。11月に両親が沖縄へ移転し、夫婦2人の生活になり新婚

みたいではあるけれど、暗く寒い家に帰る寂しさや、両親の有難さを感じています。

飯坂の帰り、自家用車の方達と片岡鶴太郎の美術庭園に立ち寄りお昼頃まで話をしながら帰宅しました。

新しい年を迎え、新しい気持ちで前向きに生活していきたいと思っています。神山に皆様が笑顔で戻ることを願って頑張らないとネ、と2人で話しています。(倉澤俊幸・幸江)

▼通信11号(平成24年2月15日)

☆「皆さんお変わりありませんが、避難してからもう10ヶ月新しい年を迎えました。皆さん良い年を迎える事ができましたか。私達も、息子や兄弟達も来てくれて、いつもと変らない正月でしたが、我が家でないのがとても悔しく、悲しいです。それに来てくれた人も、避難している所だからと遠慮しながらの来訪でした、どこもそうだと思います。何とか正月を迎えたという感じです。

忘年会は楽しかったです。区長さん、役員の方にはご苦勞をお掛けし、本当に有難うございました。今まで、神山にいてもやった事の無い一泊、話すことがいっぱい午前一時すぎになりましたネ……一人一人の笑顔が忘れられません、また機会がありましたらお会いしたいです。これから雪多く降ると思います。雪の多い所に

行かれた方は、慣れない雪の生活大変だと思います、風邪などに十分気を付けて下さい。こちらいわきは、まだ雪降らないので朝晩毎日、犬と散歩をして頑張っています。

いつ戻るか見通しがたちませんが、忘年会での「あの一言」、神山に帰りたいとの皆さんの願いは一つ、早く神山で再会できる事を願い、信じて頑張っていきたいですね。お体に気を付けてお過ごし下さい。(吉田健司・イツ子)

☆山梨での生活も11ヶ月になります。母をはじめ家族みな元気でおります。仮設住宅を申込んでいますがいづれ入居できるのか、3月末までに入りたいものです。住んでいる笛吹市はほとんど果樹園ばかりで、庭先までぶどうの棚で、ぶどう園の中に家がある感じです。ぶどう園での手伝いをしましたが、30分ほど仕事をすると言のまわりが大変疲れて続けられなく休み休みの仕事でした。

地元の人は平気で続けているのに驚きました。また、精米所を探す苦勞しました。皆さんに早くお会い出来る日を待っています、どうぞお元気に体に気を付けてください。(池崎恒一)

▼通信12号(平成24年3月15日)

☆皆様お元気ですか？私達も飯能にきて、11ヶ月になり

ました。長男(佑斗)も薬局に就職が決まり、入社式を待つばかり、なんだかやそこちらの生活にも慣れてきたようです。先日、東京の姉夫婦が遊びにきてくれ、願振峠におそばを食べに行きました。そこは、奥武蔵の山々や富士山を眺めながら、手打ちそばが人気な所でした。

好天気で、きれいな雪山の富士山を見る事が出来、春の山菜の露のとうの天ぷらが出て来た時は、うれしくもあり、悲しくもあり、本当なら神山の自宅の庭先に出た物を取って、天ぷらや露のとうの味噌を作っていたのに、今はお金を払って食べなければならないなんて、すごくショックです。埼玉も、春がそこまで来ています。

これからは、ますます山菜が美味しい時期になってきます。神山が食べたいにいろいろな山菜を食べられ位になるのには、あと何十年もかかるかもしれないけれど、元の神山になってほしいと思います。皆様も、近くに来る事がありましたら、お声をかけて頂ければ嬉しいです。お体に気を付けてお過ごし下さい。(池崎純一郎・和枝)

▼通信13号(平成24年4月23日)

☆過日(3/3日の会合)は本当に有難うございました。嬉しく嬉しく夜眠れなかったよ、思い出しては。皆さんお元気で私も元気を頂きました、次のお茶会があれば、出席したいと思っています。又バアちゃん(トキ子)の

元気なお顔を拝見致しましてホッとしました。ゲートボールの時を思い出して一人で笑っています。日立に居る用一さん夫妻に写真見せたところ、セイ子さんが皆さん元気なようだねと、とっても喜んで帰りました。なかなか思いが書けないで迷惑をお掛けしますが、宜しくお願ひします。雨・寒くてコタツから離れられない、たまに散歩する位です。(池崎恒子)

☆先日の神山行政区集会所の警戒区域解除説明会はとても、受け入れがたいものでした。覚悟を決めて一人で帰れと言われた思いで大変ショックでした。一年毎に歳は取りますし気力だけではどうにもなりません。祥子ちゃんの「ノンちゃん」に対する悲しい気持ちとても分ります、同じです。家族の様に暮らした時間忘れる事なんて簡単にできません。(舩田啓子)

▼通信14号(平成24年5月25日)

☆神山の皆様お元気にお過ごしの様子本当に何よりと言っておりいます。神山友愛の里いつも涙して読まして頂いており有難うございます。皆さん頑張っている様子がわかります。

自分もお陰様で、週三回のグラントゴルフに誘われ楽しさと悲しさをとほしています。先日、神山に行ったら誰も居ない、車も通らない何とも言いようのない悲

しさが込み上げて来ました。

いつ帰れるのか、安全・安心して帰れる日が来るのか、お先が見えないです。お互いに頑張りましようと言葉しかありません。

お体に気をつけて頑張りましようネ。お近くにお出で
の時には、是非お寄り下さい。お待ちしております。
(吉岡三三)

▼通信15号(平成24年6月15日)

☆警戒区域見直し後2回ほど一時帰宅しましたが、放射線量が玄関前で3〜4マイクロシーベルト、家の後ろは8マイクロシーベルト前後、雨樋の下は25マイクロシーベルトになります。

家の中は埃りだらけ、放射線量が気になり家の中から物を持ち出す気にはなれない。また、片付けても運び出す事も出来ず、整理も何も出来な。

見直しで、避難指示解除準備区域になったということは、その内に帰らなさいと言われるのではと思うと…。

一年以上も、特にやることもなく過ごす避難生活は、精神面でも健康面でも不安が増すばかりです。東電も国も我々の気持ちを聞こうとする様子もなく、住民への説明などのないまま事が進められている。個々の意向など…。

6月21日大田区役所から女性2人の訪問を受けました。避難している人達がどんな考えをしているか、いろいろ聞かれました。

仮設住宅の入居期間が一年ごとに延長する話等されて、私達も行くあてがどこにもないので、お願いしたところ、また、プラム蒲田に平成25年4月迄入居できる様になりました。国でも考えて呉れていると思います。その先のことは今のところ考えられませんが、出来れば神山の皆さんと一緒に生活できる事を願って居ります。

梅雨の時期お体に気をつけてお過ごし下さい。(山田シゲ子)

▼通信17号(平成24年8月10日)

☆自由に出入り出来る様になった小高区神山に帰って見ても淋しさばかり、孫と一緒に暮した2年間仲良く遊んだ庭、今は踏まれる事もなく草々が我がもの顔で青々としています。

この季節、畑はトマト・キュウリ・ナス・豆・里いも等々、畑に入って汗だくになりながらも楽しんだのが、草を取ることも入る事さえ出来ない。悔しくて車から出ないで、孫と一緒に楽しんだ日々を思い出し、涙してそのまま帰って来た日もありました。

孫は「高校を出る迄は相馬には連れて行かない」と親

この結果たして神山に戻るのか、国の指示の通り帰るしかないのか、荒れ果てた所に帰るには、元に戻すまで多額の出費が考えられ、子も孫も帰って来ない所にと考えると、考えがまとまらない。(坂井重信・はる子)

▼通信16号(平成24年7月16日)

☆いつも、友愛の里通信ありがとうございます。

アンケートあまり答えになつてなかったら、スミマセン。私達の思いをどう表現していいのか分かりません。考えはじめると無語まっでエキサイトしてきます。

原発に代わるエネルギーを早急に一再稼働なんてんでもないと思います。省エネ節電で少しでも協力していると思っています。

梅雨に入ります、お互い体調管理に気を付けていきましょう！(上野久美)

☆神山友愛の里通信15号届きました、ありがとうございます。

警戒区域見直しに関するアンケートを読み、皆さんの心からの悲痛な叫びが伝わってまいりました。神山の皆様の考えている事がみんな同じだと実感しました。

震災以来一回も帰宅していない私にも屋敷周りがどんなに草山になっているか想像がつかます。でも年老いた私にはどうする事も出来ません。

は言う。淋しい「私達何か悪い事ことでもしたかな」ローンで建てた家、3分1は払って行かなければならない。

誰も住んでいない、いや住めない家、これからどう成るだろう。原発さえなかったら、今頃暑い中ハウスの中で赤く色ついたトマトを取って、ズボンで擦って食べていただろうに。

ガードレールの3倍以上も伸びている草、高い所から眺めても誰の姿も見えない、もちろん誰も帰る事が出来ないのだから当たり前か。

戻って生活する日は来るのか？その内、私達の体はどうなっているのか？若い人達の帰らない神山はどうなるのか？考えれば考える程、悔しくて涙になる。

一日一日老いて来て、この頃は、車も歩く事が大変の様だ(前の頃は家に帰り草刈り機を背にした時だけ、何もかも忘れる事が出来る)と云ってただけ、本人はもともとずっと悔しいと思う。

近い内、神山の人達と集まって話でもしましょう。楽しみにしています。(池田トキ子)

☆お世話になっております。

いつも神山友愛の里通信を毎回両親に送って下さりありがとうございます。

今回16号に記載された、アメリカからボランテイアに

来た方の取材があった事を知り、早速エーチューブ検索しました。「神山の声」を入力すると、とても懐かしい映像がでてきて、嬉しくてワァーと思わず拍手をしていました。

神山の風景が映しだされていて胸が熱くなりました。自然の美しい神山に、今だれも住むことができない悲しみは、国や東電にどれだけ伝わっているだろうか？本当に怒りが込み上げてきます。

放射線量の高い神山地区の現状をエーチューブで世界に発信されたこと。そして、世界の皆さんに少しでも知って頂きたい、そんな願いが伝わりました。またその中で、章生先生が「絆」は震災後に深まったのではなく、昔から「絆」で結ばれていたとおっしゃっていた言葉が、とても心に残りました。

7月22日朝日新聞震災500日特集の記事拝見しました。

「古里を守る」「34世帯結ぐ手製通信」と書かれて大きく載っておりまして。

通信の送り先が43ヶ所とは、驚きました！。本当に大変な作業だと思いますが、お体には充分気をつけながら、神山地区の皆様のお心を繋いで行つて頂けたらと願っております。どうぞよろしくお願い致します。

与えられたか分かりません。もうすぐお盆、帰ることも出来ません。目に見えない恐ろしい放射能に覆われてしまった故郷、もう取り返すことも出来ません。

こんな悲しみ・苦しみ何処の誰に伝えればいいの、この様な思いで日々過ごしている人が日本各地に大勢居られる事を忘れないでほしいです。マスコミの皆さん、こんな私達を置き去りにしないで下さい。

神山の皆さん、私も皆さんと心は一つです。遠く埼玉の地より、エールをお送りさせて頂けます。まだまだ、厳しい日の連続かと思いますが、どうぞお体に気を付けてお過ごしになられますよう、心よりお祈り申し上げます。(さいたま市在住 佐藤正義 佐藤和子義弟)

▼通信18号(平成24年9月20日)

☆輪投げ大会のみなさんの楽しそうな様子が今も浮かんできます。例年なら神山のあのゲートボール場で、子供達のにぎやかな声がおふれていたのになあーと思わずにはいられません。でも一時でも避難していることを忘れた時間であり、笑の中に「神山が帰ってきたー」そんな思いで楽しいひと時を過ごすことができ、お世話して下さいました方々のお骨おりに感謝しています。これから先の

不透明な現実に私達はとうすればいいのかー原発事故からもう一年半も過ぎたのに何も変わらない毎日、昨年12

神山の皆さん富澤の両親大変お世話になって居ります。遠く離れた所に来ているものですから、皆さんにご無沙汰して居ります。大変厳しい状況が続いておりますが皆様方が、健康でお元氣にお過ごし下さいますようお願い申し上げます。(沖縄県在住 玉城身知子 富澤豊娘)
☆神山の皆さん、昨年の震災・津波・原発事故と三重の苦しみ、そして避難生活に耐え忍んでいる事に、心からお見舞い申し上げます。

私は、小高町の情報を知りたく新聞の隅から隅まで毎日読み続けて居りますが、相馬と言うと飯館村の記事ばかりで、小高に関する記事は見つかりませんでした。

ところが、去る7月22日付朝日新聞に「南相馬故郷を守る」と大きな見出しが、目に飛び込んできました。記事を一気に読み続けました。神山の皆さんの心情を思った時に、涙が流れたし止まりませんでした。情報を発信して下さいた大友さん、そして記事として取り上げて下さった記者さんに心から感謝申し上げます。

私も古里神山を離れて半世紀になりますが、一日たりとも神山を忘れた事はありません。生まれ育った緑豊かな神山の集落、毎年正月・お盆と帰省しては先祖の墓参りも続けて参りました。

小川のせせらぎにどれ程心を癒され、明日への希望を

月にみんなで集まった時は「神山に帰るぞー」って思いがみんなの心に満ちていたのに、今は何も決められないまま月日だけが過ぎて行くばかりです。帰りたいなあという自分と、いや帰れないかもしれないという自分が綱引きをしている様な毎日です。(松倉恵美子)

○警戒区域見直しについて

いままで、警戒区域の中に3回ほど、家に帰りました。今回、警戒区域見直しにより家に自由に出入り出来るようになりましたが、複雑な思いです。警戒区域に指定されていた時の一時帰宅は、東電の方で放射能から我々の身を守る対策をいろいろとやっていました。しかし、今は全くの無防備です。あの時と何がどう変わったのでしょうか。放射線量は高いままです。家への立ち入りは自己責任です。放射線については目に見えない恐怖感があり、このことについては、私達神山地区住民全員が思っていることです。

見直しの意図はわかりませんが、自分達の健康面を考えると不安です。また、自由に入れるということは、犯罪面でも新たな心配事が考えられます。

これまでは、放射線量が高いのでしばらくは地元には

戻れないものと思っていたし、また、除染などを行い早く放射線の低減をしてくれることを期待していました。

4月16日に警戒区域見直しとなり、家について見ましたが、家の周りは荒れ放題となつてしまい、それを見ると悲しく辛く感じます。これをどこにぶつけて行っているのかやりきれない想いです。

立入りに関する注意事項として、市からの説明は①宿泊の禁止②家の中を整理して出たゴミ類は袋等に詰め、敷地内又屋内で保管する③家の周囲の草刈、草むしり、除染したものも、まとめてその場に保管。以上であり、同じ地区でも、場所や地形で放射線量に大きな差があり、目に見えない放射線量の管理は、まったくの自己責任です。私達には個人の家の放射線量を示されてもないし、放射線量計をもっているわけでもない状況の中では市行政の住民に対しての考え方が理解できません。

○市行政に求めるもの

今回警戒区域の見直しについては、警戒区域市町村によつて対応がそれぞれまちまちです。他の市町村のほとんどは、警戒区域解除見直し前に東電側と住民の説明会を持ち、住民との話し合いの後に、解除の段階を踏んでいるようです。南相馬市に於いては市長が直接受け、市長

から住民へ決まった事の伝達で、我々住民の思いや意見をとり入れることはありませんでした（市長には、市民の代表としての考えがあつての事と思うが、それが我々には伝わってこない、原発避難市民不在と言う感あり残念）。

もう少し住民の目線にたった、思いやりのある市政をお願いします。東電原発損害賠償に関する件でも、一切関知していません（少なくとも我々へ、向けた言葉を聞いたことがない）。市民不在の冷たい市行政という思いです。

○被災者への損害賠償

警戒区域の再編によつて、実際は放射線量が高いのに「避難指示解除準備」区域になり損害賠償に差がでたり、打ち切りになつたりするのはと心配する人もいます。

損害賠償請求については、同地区として共有するものがあると考えられるが、基本的にはプライバシーのこともあり、原子力損害賠償紛争解決センターへ直接行く、又は行政区長会などによる申し立てなど東電へ個人が直接請求する個々人の対応になっています。

○政府や東電に早急に解決してもらいたいこと

政府が発表した事を、住民に解りやすく説明して一刻

も早く事を進めてもらいたいと思います。

事故後一年半が過ぎようとしています。これまでの対応は遅々として進んでいません、政治の現状を見ていると被災地で苦しんでいる避難者を忘れてしまったのでしょうか。

今、我々の一番知りたいのは、果たして家に戻れるのか、それはいつ頃なのか、それとも戻ることが困難なのか、それを早く知ることによつて我々も今後の生活の方針が立てることが出来るのです。今の状態は全く先の見通しが立たない、無為に時間を過ごしているようで、希望が持てず非常に残念なことです。

今回の原発事故で一番心配なのは、子供達の健康面のことです。生涯にわたつての健康チェックと医療体制の確立と支援をお願いします。

それから、原発被災者の差別的なことのないように十分に配慮した対策を考慮して頂くことです。

我々は経済的な豊かさを多く望みません。ふつうの生活ができる家と、医療体制の整備、以前生活していた様な心豊かに生活できる、生活環境（コミュニティ）の確保を望むのみです。

今の状態は、こころが闇です。心も体も不健康です。明るい材料を見つけない気持ちで一杯です。

○支援者への感謝

今回の東日本大震災及び東電の原発事故による避難生活を経験して一番感じたことは、災害事故に備えた防災体制は机上の計画であり、行政も企業も危機意識に対する準備が十分であつたのか。中身はあつても、最も大事な住民への説明、対応が全く不徹底で、敢えて言えば全然形をなさない行政の脆弱さが身を持って知らされた思いです。

その証拠が、今でも地域の方々が全国各地にバラバラに避難を強いられ不自由な生活をしている事です。

私は、不時に備えて連絡網として携帯電話番号を家族以外の親族等への連絡方法として近所の方へお願いしておりました。普段は通常の電話の生活で十分に役割を果たしておりました。今回我が家を離れて、連絡網の役割の非常に大きかつた事を知りました。（私の携帯番号は近所の方一人そして学生時代の旧友一人だけと通じて居りました）

この連絡網によつて地域の方々の避難状況を知ることが出来、旧友が北海道から関東各地にいる友に状況を伝えて頂いたことで、多くの方々から早速励ましのお見舞いご支援を頂き、今改めて思い出し本当に勇気づけられ、足元を見つめ歩を進めることが出来ました。あの時の気

持ちを上手く表現できる言葉が見つかりません。有難うございました。

その事が一つのキッカケとなって「神山友愛の里通信」の発行となりました。知人から知人を通して応援・支援の輪が広がり、今では私の全く面識のない方から力づけを頂いたり、電話の友が出来たり、また、外国からのボランティアの方の訪問まで頂きました。

良人の心の温かき優しさを身に染みて感じ感謝の気持ちで、強く生きなければと思う気持ちでいっぱいです。

今自分に出来る事は、自分の身丈に合った事を精一杯やることによって、ご支援・お力添えを下された方々への恩返しになることを心に誓い、努力してまいります。

本当に皆様ありがとうございます。紙面をお借りしましてお礼申し上げます。

○大友章生プロフィール

福島県南相馬市(旧小高町)出身

元中学校教諭(飯舘村・双葉町・浪江町及び南相馬市内各中学校を歴任)

現南相馬市行政委員会委員

米国在住の山本ユリ氏によるインタビューがエー

チュートにて公開される(南相馬市小高住民の声 1
4、他に英語版)

「神山友愛の里通信」が朝日新聞に掲載(7/22)される。

2012.6.19

2012.6.19

偉い人・立派な人

川鍋芳郎

言うまでもなく、人間は、さまざまな欲望に向かって生きています。したがって、少しでも偉くなりたい、立派な人になりたいと思うのも自然です。

ある辞典に、偉い人とは、すぐれた人、一方立派な人とは、きわめておごちな人と説明されていました。

しかし、御批判があると思いますが、私は、あえて、偉い人とは、社会的に地位があり、リーダーとして責任ある人、一方、立派な人とは、人格者として尊敬される人と解釈したいと思います。

それから、猿は、木から落ちて、猿にかわらないが、政治家は、落選すると、ただの人になれないと聞いたことがあります。

確かに、社会的地位(肩書き)は簡単に失われます。

さて、現実の日本社会は、偉い人が、必ずしも立派な人とは限りません。

例えば、有力政治家が、平気で嘘をついたり、大企業の経営者や、幹部警察官が不祥事を起こしています。

このような、ニュースを聞くたびに、残念であると同時に悲しくなります。

ところで、現在の美智子皇后陛下は、結婚する時、記者の質問に答えて、皇太子だから、結婚するのではなく、皇太子が一人の人間として、立派で尊敬できるから結婚しますと話していました。

勿論、偉くなるための努力は重要ですが、私は、「人格に勝る肩書きは無い」と考えています。したがって、偉くなる前に、立派で尊敬される人間になる方が大切だと